楊貴妃　平成三十年五月二十九日　　加藤　徹

　このプリントは、http://www.geocities.jp/cato1963/20180508waseda.html#04　を土台にしています。

　　ポイント

★「傾国の美女」の代名詞的存在で、彼女に取材した文芸作品は多い。

★彼女自身は政治的野心をもたなかった。が、実家が外戚として富貴をきわめ政治に関与し、玄宗が彼女に夢中になって国政をおろそかにしたことで、政治が乱れた。

★彼女には同情と批判の双方がある。

★ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典の解説

楊貴妃　ようきひ　Yang gui-fei; Yang kuei-fei

[生]開元7(719)　[没]至徳1(756).馬嵬坡

　中国，唐の皇妃。蒲州永楽 (山西省 芮城県) の人。幼名は玉環。初め玄宗の皇子寿王ぼうの妃であったが，のち玄宗に召され，天宝4 (745) 年貴妃に進んだ。玄宗の寵を一身に受け，一族みな高官に上り，権勢をほしいままにしたので恨みを受け，安禄山の乱で玄宗が四川に逃亡する途中，馬嵬坡で一族の楊国忠とともに兵士の強要によって死を賜わった。その艶麗さ，玄宗との交情，栄枯の激しさなど，同時代からすでに文学作品の題材となることが多く，白居易の『長恨歌』，陳鴻の『長恨歌伝』をはじめとして，詩歌，戯曲，小説，随筆に数えきれないほどの作品が書かれている。

★デジタル大辞泉の解説

よう‐きひ〔ヤウ‐〕【楊貴妃】

〇［719～756］《「貴妃」は女官の位の名》中国、唐の玄宗皇帝の妃。永楽（山西省）の人。初め玄宗の子寿王の妃。歌舞音曲に通じ、また聡明であったため、玄宗に召されて貴妃となり、寵を一身に集め、楊一族も登用され権勢を誇った。安禄山の乱で長安を逃れる途中、官兵に殺された。白居易の「長恨歌」をはじめ、多くの文学作品の題材となった。

〇謡曲。三番目物。金春禅竹作。玄宗皇帝の命を受けた方士(ほうし)が、亡き楊貴妃の霊を仙界の蓬莱宮(ほうらいきゅう)で尋ねあてると、楊貴妃の霊はかつての玄宗との愛などを語る。

★以下、加藤徹による解説。

玄宗皇帝

　685年-762年。在位712-756。氏名は李隆基。則天武后(624-705)と高宗(628-683)の孫。治世の前半は名君ぶりを発揮して「開元の治」と呼ばれる繁栄をもたらしたが、後半は政治に倦み楊貴妃を寵愛するなど善政が持続せず、安史の乱が起きた。

梨園(りえん)

　歌舞音曲を愛した玄宗は、治世の初年（712年）に、芸人たちを梨の庭園に集め、音楽教習の施設を作り、玄宗皇帝が直々に教えた。以来「梨園」は東洋の芸能界の代名詞となり、玄宗皇帝は芸能の守護神となった。

貴妃

　後宮の女性の位。唐の後宮の制度では、皇后をトップとして、四夫人（貴妃、淑妃、徳妃、賢妃。正一品）、九嬪（昭儀、昭容、昭媛、修儀、修容、修媛、充儀、充容、充媛。正二品）、二十七世婦（婕妤、美人、才人。正三品から正五品）、八十一御妻（宝林、御女、采女。正六品から正八品）などがあった。

　楊貴妃は、楊姓の貴妃、という意味。

楊貴妃

　719－756。唐の玄宗皇帝の寵愛を受けた女性。玄宗の息子である寿王の妃だったが、745年に玄宗に召し出され、貴妃となった。実家の楊一族も登用され権勢をふるった。安禄山の乱が起きると、玄宗皇帝とともに長安から四川に向かって逃げたが、その途中、馬嵬(ばかい)の地で官兵がストライキを起こし、反乱勃発の一因となった楊一族の責任を糾弾したため、楊貴妃はくびり殺された。彼女の生涯は、白居易の漢詩「長恨歌(ちょうごんか)」を始め、さまざまな文芸作品の題材となってきた。

外戚(がいせき/げしゃく)

　母方の一族、親戚。楊貴妃と玄宗皇帝のあいだに子供はできなかったが、楊貴妃の実家である楊家の男女(又従兄の楊国忠、姉の虢国夫人、韓国夫人、?国夫人、秦国夫人、等)は外戚として富貴栄達を遂げ、権勢をふるった。

　中国史上、外戚の大きな弊害の最初の例は呂后であり、最後の例は楊貴妃の一族であった。

　楊貴妃のあとも外戚の弊はしばしば見られたが、後の王朝は漢や唐の歴史的教訓をふまえたこともあり、漢の呂一族や唐の楊一族にくらべると小粒だった。例えば、南宋の末に賈似道(かじどう　1213-1275)も姉(理宗皇帝の寵妃)のおかげで出世して宰相までのぼりつめたが、王朝滅亡寸前の最末期であったこと、南宋の官僚制は漢や唐より成熟していたこともあり、小粒感は否めない。

楊国忠

　楊貴妃の又従兄(またいとこ)。若いころは酒と博奕が好きな無頼漢で一族の鼻つまみ者だったが、楊貴妃が玄宗皇帝の寵愛を得たことをきっかけに栄達し、玄宗から「国忠」という立派な名前ももらって、宰相までのぼりつめた。最後は安禄山と対立し、安禄山が反乱を起こす一因を作った。楊貴妃や玄宗皇帝らと四川に逃げる途中、馬嵬の地で命を断たれた。

　楊貴妃は「中国四大美女」の一人。

★四大美女の顔ぶれについては諸説があり、王昭君の代わりに卓文君を、貂蝉の代わりに虞美人を加えることがある。西施と楊貴妃の２人は不動である。

★漢語には、女性の美貌を言う「沈魚落雁、閉月羞花」という成語がある。「ひそみにならう」の故事で有名な西施の美貌に見とれて、川の魚も泳ぐのを忘れて水底に沈んだ。北の異民族の国に嫁がされた王昭君が琵琶をかなでると、空を飛ぶ雁も感動のあまり地上に落ちてきた。三国志演義の貂蝉が月を拝むと、月は彼女の可憐さに圧倒されて雲に隠れた。唐の玄宗皇帝に寵愛された楊貴妃が花園を散歩すると、花たちは彼女のあでやかさに遠く及ばぬことを恥じ、みな花びらを閉じた。日本語の「花も恥じらう乙女」という言い方もこれが語源である。

★映画「楊貴妃」1955年公開。監督：溝口健二　出演：京マチ子、森雅之、山村聡、小沢栄、山形勲、南田洋子ほか。楊貴妃は家族のため忍従するおしとやかで、純愛タイプの女性として描かれる。

★江戸川柳と楊貴妃

　日本の古い説話。楊貴妃の正体は熱田神宮の熱田大神(あつたのおおかみ)の化身で、中国の日本侵略を防ぐため美女の姿になって玄宗皇帝を籠絡し、安禄山の乱で楊貴妃は殺され(たことにして)、熱田大神は熱田神宮にお戻りになった、という説話が伝わっている。

　この他、楊貴妃は死んでおらず、日本に逃げて生き延びた、という伝説もある(貴妃東渡)。

やまとことばはおくびにも貴妃出さず

日本にはかまいなさるなと貴妃はいひ

三千の一は日本のまわしもの

唐の人魂を日本でめつけ出し

楊貴妃を湯女に仕立るりさん宮

湯あがりは玄宗以来賞美する

やうきひはろくな一ッ家は持たぬ也

八日には楊国忠へ加増なり

おかあさんなどとろく山きひにいひ

美しい顔で楊貴妃豚を喰い

美しひ顔でれいしをやたらくい

★白居易(白楽天)の漢詩「長恨歌」

　白居易(772-846)が806年に書いた長編の漢詩で、紫式部の『源氏物語』や、能の演目『楊貴妃』をはじめ、日本の文芸作品にも多大の影響を与えた。

以上